

部局名

農学部 森林緑地環境科学科

担当: 清水 収



テーマ

大地を診断するフィールドワーク



土砂災害に遭わない社会を作り出すには、大地を診断し、安全な土地を見分けることが重要です。近年、地球温暖化に伴う異常気象が増えており、線状降水帯やスーパー台風といった言葉もよく目にします。さらに、水蒸気噴火やマグマ噴火といった専門的用語もよく聞かれ、火山噴火も多発していることを実感します。

このように災害を引き起こす誘因がどんどん強まっていて、土砂災害についての研究が社会から強く求められています。



詳細内容はQRコードから確認できます

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/agr/books/book-green/post-39.html>



2017年の九州北部豪雨の際、福岡県朝倉市で発生した大きな土砂災害。土砂の氾濫によって多くの人々が家や田畑を失い、命を落とされた方も大勢いました。土砂災害に遭わない安全な暮らしは全ての人の願いです。



阿蘇カルデラ内の斜面で2016年熊本地震の際に発生した、深さ10mもある大規模な崩壊地を調べています。地盤は全て阿蘇山の降下火山灰層から成っています。



特徴の異なる様々な火山灰が数万年前から繰り返し降り積もって、重なり合った層を成していますが、そのうちの層の火山灰が、崩れ易い性質を持っているのか調べています。